

# 池波正太郎「黑白」の中の雑司ヶ谷 矢島勝昭

▼寛延3年～宝暦3年(1750～53)。思わぬ権力争いに巻き込まれた剣客・波切八郎と秋山小兵衛。小説『黑白』は作者池波正太郎の比類なき想像力と構成力とで、二人の数奇な運命を活写する。その前半の舞台が雑司ヶ谷だ。限られた紙面のため抜書きにてご容赦。(▼印は解説)

●『・・・田園風景の中に松・杉・楓・銀杏などの古木が鬼子母神の境内にそびえ、門前には藁屋根の茶店や茶屋が立ちならび、名物の芒の穂でつくった木菴の玩具や芋田楽、焼だんごなどを売っている。いま波切八郎が独り雨の音を聴いているところは、この鬼子母神の境内と「目と鼻の先・・・」にある料理茶屋・橋屋忠兵衛方の離れ屋であった。橋屋は、鬼子母神の参道の一の鳥居より手前を西へ入ったところにあって、他の料理屋とは「格式がちがう」のだそう。』

▼橋屋忠兵衛は実在した人物で、地誌『若葉抄』金子直徳著(1811年以降)によると『橋屋忠兵衛は元・源助といい、けやき並木の間で団子などを売り・・・後に手打ち蕎麦が有名となって富榮えた』とある。小説の橋屋忠兵衛は養子で三代目、武家があがり。この設定が二人の剣客の運命を、あらぬ方へと引っ張ってゆく。さて、すすきの穂の木菴の売り始めは、文化・文政期というのが定説らしいが、この小説からは離れるが、文政期の著書『遊歴雑記』に『栗の花にてこしらえし木菴名産とす』とある。しかし、栗の花は花穂が太くてもろく、花粉も甚が多い。木菴作りにはとても向いていない。

●『・・・波切八郎は下雑司ヶ谷町の通りを横切り、細い道を南へ下りつつあった。この道を下りきって、神田上水へ架けられた姿見橋をわたると、道はまた急坂となり、高田の馬場へ出る。そこから渋谷へ出ると、目黒・行人坂の波切道場への道のりは、さして遠くない。八郎が(いま)歩んでいるあたりは砂利場村といい、左側は崖地の下の木立が深く、右手は一面の田畠であった。前方に、南蔵院の杜がのぞめた。細いみちだが、牛込と雑司ヶ谷をむすんでいるだけに、八郎の前後にも牛をひいた百姓や、鬼子母神へ参詣に行くらしい老夫婦などが歩んでいた。』

▼下雑司ヶ谷の通りとは目白通りのこと、姿

見橋は面影橋。波切八郎の道場は、JR目黒駅の西、目黒川の太鼓橋手前、雅叙園付近に当たる。いま波切八郎は、面影橋手前、神田川の砂利採取場あたりを南へ歩んでいる。

●『・・・(すれ違った) 小林惣藏は、八郎の亡父・波切太兵衛の門人だった人物で、この日は母の命日だったので、菩提所の下雑司ヶ谷町にある本住寺へ墓参りにおもむくところであった。』

▼JR目白駅から、東へ進む目白通りは、やがて不忍通りを左へ分ける。豊島・新宿・文京の区境で、この二つの通りを結んで、三角地帯を形成しているのが、日本女子大学東側の幽靈坂、この坂に沿う三角地帯の内側に本住寺があった。

●『・・・(波切八郎は) 身を返して、雑司ヶ谷の方へもどりはじめた。金乗院という密宗の寺の前の細道を左へ切れ込んで行った。それから、人気もない細道へ出て、しばらく行くと、右手に藤枝稻荷の社の藁屋根が木の間にのぞめた。』

▼宿坂の金乗院の角を西へ曲がった波切八郎は、高南小学校前から都電學院下停留所を越え、學院崖下の新井薬師道を進み、山の手線の線路の西、おとめ山公園に南接する東山稻荷へ出た。これが藤枝稻荷である。社は小さいが、背面の森の濃い緑に朱色の鳥居が映えて美しい。波切八郎が現れても不思議でない雰囲気が漂っていた。

●『・・・護国寺の裏門から、雑司ヶ谷の鬼子母神へ通じている道がある。その道に沿って左に宝城寺・清立院という二つの寺があり、お信の父母の敵・高木勘蔵の住処は、雑司ヶ谷への道から左へ切れ込み、細道を行った突き当たり』にある。『(鬼子母神道には) 人通りが絶えぬし、清立院の手前には茅ぶき屋根の茶店もならんでいる。・・・(波切八郎は) 護国寺門前の蕎麦屋で腹一杯をし、参詣をすませ・・・清立院裏手へ向かった。』

▼護国寺裏門から雑司ヶ谷靈園の南に接する鬼子母神道を行くと、左(現状では右)に茅ぶき屋根の茶店・清立院・宝城寺が見える。これらは天保3年、長谷川雪旦の『江戸名所図会』(清立院・日観堂・請雨松・宝城寺)に詳細に描写されている。高木勘蔵の住処は、この清立院の裏手、現在の墓地の中にある。小説のなかの剣客が行き交った道を散策してみると一興と思う。

# まちづくりニュース 60 2003・10

## 企画・発行

雑司が谷地区まちづくり協議会  
池袋南地区まちづくりの会  
豊島区都市整備部住環境整備課  
☎ 直通3981-0489／森・西口・鳥居

## 編集協力

株式会社 エコライン  
☎ 5706-6031／小野  
豊島区広報印刷物

ぞうしがや

## まちづくり井戸第2号年内完成

池袋南地区防災生活圏促進事業では、まちづくり井戸の整備について所有者に協力をお願いし、どのような形にするかを話し合ってきました。このたび話し合いがまとまり、設計に着手しました。

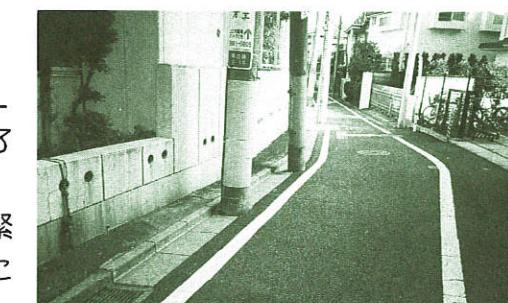
場所は、南池袋3-24。駐車場の一角に残されていた井戸を調べた所、まだ使えることが判りました。この井戸を道路際まで横引きし、駐車場への影響を少なくして整備します。10月中に工事に取り掛かり、年内には完成となります。



## 音大前道路整備完成

昨年から工事を行ってきた音大南側の電柱移設工事は、L型側溝の移設、電柱の移設、舗装の復旧と全ての工事が終りました。

整備前には電柱が道路の幅を狭くして、いざという時に緊急車も入れない道でしたが、整備によって広く使えるようになりました。ご協力いただいた関係者の皆さんに感謝もうしあげます。



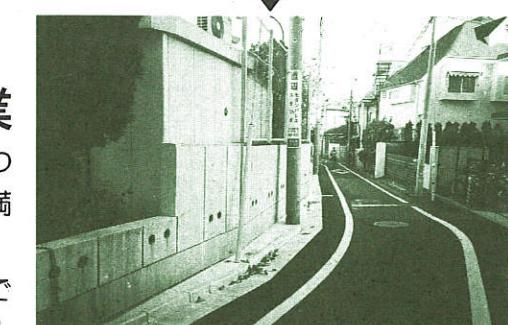
整備前

## 平成15年度で終了

### ・・・雑司が谷墓地周辺の不燃化促進事業

雑司が谷墓地周辺地区で、これまで20年間にわたって行われてきた都市防災不燃化促進事業は、今年度で事業期間が満了となります。

詳しくは、豊島区住環境整備課事業推進係まで  
電話3981-2611



整備後

## 楽しく知る 防災まちづくり

### 防災まちづくり

雑司が谷地区で防災まちづくりが始まって20年が過ぎました。また、池袋南地区で防災生活圏促進事業がはじまって3年になります。

この間に、雑司が谷地区では多くの建物を不燃化して雑司が谷墓地の安全性を高めると共に、墓地の廻りの万年堀を撤去して生垣にしたり、雑司が谷児童館の隣にかきのみ広場を作るなどの整備を行ってきました。池袋南地区では民間井戸を井戸広場として整備したり、電柱を移設して道路が災害時にも使いやすくする事業を進めています。

### 人のつながりづくり

防災まちづくりは、このような施設を整備することと共に、人のつながりをつくることが大切だと言われています。阪神淡路大震災では、人のつながりの大切さについてたくさんの教訓を残してくれました。

震源となった淡路島の北淡町では多くの家屋が倒壊したにもかかわらず、町の人たちが、どこの家のどの部屋に誰が寝ているかを知っていたため、救出



# 防災まちづくりイベント

作業が迅速に行われ、多くの人々が救われました。また神戸市の真野地区では、長年に渡って行われてきたまちづくりによって、地区の住民の結束が固く、力を合わせて火災を消し止めたり、避難生活を助け合ったり、その後の復旧や復興も順調に行われています。

人のつながりをつくるために2つの会ではさまざまな取り組みを行ってきました。協議会自体が、町会の枠を越えた連携づくりとなっています。また、雑司が谷墓地の周辺では誰でも参加できる緑のこみちの会が作られ、生垣の維持管理を行っています。これも生垣を通した人のつながりづくりです。

### 防災まちづくりイベント

2つの会では、さらに多くの方々にご参加いただき、人のつながりにつながるように防災まちづくりイベントを行うことにしました。この防災まちづくりイベントは、防災訓練とは違って、あ子さんからお年寄りまで、たくさんの方々が、楽しみながら防災について学ぶことができるイベントです。ご家族で、ご近所で、お誘い合わせの上おいでください。



日時：2003年11月9日（日）

午前11時～午後2時

小雨決行

場所：東京音楽大学グランド

## ●防災スタンプラリー

防災に関する

5つのチェックポイントをまわり  
楽しみながら防災の訓練ができます  
スタンプを5個集めた方には  
花鉢をプレゼント



### ◇投てき水パック

### ◇非常食の試食

### ◇防災まちづくりの成果

### ◇煙体験

### ◇水消火器

## ●お楽しみコーナー

子どもからお年寄りまで楽しめる  
いろいろな出し物にご注目

### ◇ミニ蒸気機関車

### ◇輪投げ

### ◇大道芸

## ●食べ物コーナー

次の食べ物を用意しています  
受付でチケットをもらってください

### ◇ソースせんべい

### ◇焼きそば



主催：池袋南地区まちづくりの会

雑司が谷地区まちづくり協議会

池袋通西睦町会・南池袋一丁目町会

南池袋二三四町会・光和会

池袋東口親和町会・青葉会

雑司が谷一丁目東部町会・柳下会

雑司が谷二丁目町会・東目白本町会

雑司が谷三丁目町会（順不同）

協力：東京音楽大学

豊島消防署・豊島消防団

事務局：豊島区都市整備部住環境整備課（電話3981-0489）

